

証し文

吉村知真

1. まず、救いを受ける前の自分を振り返ります。

私が育った家庭では、父と母の夫婦喧嘩が毎日、凄いものでした。そのため、私は幼い頃から、父母に対してはもちろん、すべての周りの人たちに怯えながら生きてきました。自分の傷ついた感情を誰かに癒やしてもらいたくても、家族には頼れないと子ども心に思っていました。

大人になってからは、自分を癒してほしいとか、愛してほしいという思いを、周りにいる人たちに常に激しく求めるようになりました。そのためなら、平気ですをついたので、人間関係はどんどん悪くなりました。それでも、相手の気持ちを考えることなく、自分の思うようにしたいという欲求が高まり、自分勝手な行動がエスカレートしていきました。同時に、自分の心も病んでいき、仕事を転々とししました。

何もかも思うようにならなくなって行き詰ったとき、これは自分の考え方がおかしいのではないかと思うようになり、精神クリニックに行きました。病名は「アダルト・チルドレン」、略称「AC」でした。機能不全の家族のもとで育ったことが原因で、大人になってもトラウマを持っている人のことです。

通院する中で、「AC のための 1 2 ステップの会」という精神疾患からの立ち直りを目指す団体に出会いました。その団体では、「霊的な目覚めでしか、精神の回復はできない」と教えていました。そして、その団体を運営している人たちの中には、クリスチャンの方々が多くおられました。そのため、私もキリスト教に段々と興味を持ち始めました。

2. 次に、救いを求めるようになった経緯をお話します。

ある日、以前にテレビで放送されていた番組で、「知ってるつもり」の動画がネットに出ているのを見ました。その番組の最終回の動画で、テーマは「イエス・キリスト」でした。その動画を見て、こんな方がおられたのだとビックリしました。今までは、ぼんやりとしか知りませんでしたから、もっとイエス・キリストのことを知りたいと思いました。

その思いは日増しに強くなっていきましたが、どうしたらイエス・キリストのことを知ることができるのか、わかりませんでした。とにかくネットで検索してみると、ハーベストタイムの中川健一牧師の動画が出てきました。それからは、中川牧師の動画からお話をたびたび聴くようになりました。

ある日、ルカによる福音書 23 章 34 節の箇所からのお話でした。

その時、イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか分からないのです。」（共同訳、ルカ 23 : 34）

このみことばを聞いたとき、私もこの「彼ら」の一人だと思いました。何をしているのか分からない、それまでの私の人生はまさにそのとおりでした。そして、自分が罪人であるとハッキリしました。

私は自分で聖書を買って、福音書を読みました。読むうちに、これまで心の中にくすぶっていた問い、「救世主って何ですか。それは誰ですか」という問いについて、生まれて初めて心の中にストーンと落ちてきて、私の罪をあがなって救ってくださる方、救世主はイエス様しかいない、と思い始めました。

3. 次に、救いを受けたときのことをお話します。

ネットばかりではなく、もっと近いところで、聖書のこと、イエス様のことを知りたいと願いました。聖書フォーラムの福岡集会に問い合わせると、熊本の清水リーダーから連絡をいただき、2020年8月、オンラインで初めて集会に参加しました。そして翌月9月からは、福岡の実集会に参加するようになりました。また、熊本やみやまのオンライン集会にも参加して、兄弟姉妹皆さまとの出会いをいただきました。

この頃の学びで、とくに今でも印象に残っていることが二つありました。

一つ目は、祈りに関する学びの中で、ゲツセマネの園でのイエス様の祈りでした。父なる神様と御子イエス様とが、言葉では表せないほどの強い絆で結ばれていることを感じました。そのとき、私は、まるで時間が止まったような感覚になり、強い感動を覚えました。私も父なる神様に向かって、「私たちの天のお父様」と呼びかけることができるようになったら、どんなに素晴らしいだろうかと思いました。

二つ目は、福音書を読み進むうちに、マルコ12章28節の最も重要な戒めについての問答に来たときのことです。

イエスはお答えになった。

「第一の戒めはこれである。『聞け、イスラエルよ。私たちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』 第二の戒めはこれである。『隣人を自分のように愛しなさい。』 この二つにまさる戒めはほかにない。」(共同訳、マルコ12:29~31)

この聖句に出会ったとき、自分の今までの生き方は、これとは全く逆であったと気づきました。神を愛するどころか、神を認めていませんでした。そして、自分を愛することができず、まして周りの人を愛することもできませんでした。

私は、これまでの生き方を悔い改めました。聖書の神を神として認め、神を愛する生き方になりたいと思いました。そして、自分自身を愛し、隣人を愛する生き方になりたいと思いました。

2021年3月20日の福岡集会で、横の席の姉妹に「私は信仰に入りたいと思ってい

ます」と言うと、「それなら今、信仰告白すれば」と促してくださり、清水リーダーからいくつかの質問を受けました。福音の 3 つの大切なこと、イエス様は私たちの罪のために死なれたこと、墓に葬られたこと、そして三日目によみがえったことについて、私は「信じます」とはっきり、お答えしました。

その次の集会では、私の信仰告白について兄弟姉妹の皆様に伝えられ、皆様からの祝福を受けました。「吉村さん」と呼ばれていたのが、「吉村兄弟」と呼ばれるようになりました。

4. 最後に、救いを受けた後のことについてお話します。

救いを受ける前は、仕事から離れていましたので、就職することにしました。そして就職に合わせて、出身地である山口県に帰ることにしました。認知症を患った母がいるからです。父は 2 年前に他界して、母が一人で生活しております。

私は、人との関わりにおいて、今までは愛を受け取る側でありたいと、もがいていたところから、これからは自分の方から愛を与える人になろうと、強く思うようになり、帰郷することにしました。

この 1 年ほどを振り返ると、心の中にもやもやしたものがあっても、聖書を読んでいくうちに、迷いがなくなっていく、そのような日々でした。聖書に出会い、聖書フォーラムの集会に参加して、ますますイエス様のことが歴史的な事実として確かなものになっていきます。

私は、イエス様を愛しています。そして、聖書フォーラムの兄弟姉妹方との交わりを感謝します。

私はまだイエス・キリストにある幼子ですが、イエス様の弟子として歩んでいきたいと願い、本日洗礼を受けます。そして私の人生のかじ取りを、私たちの助け主であるイエス様と聖霊様にお委ねする決心をしました。私は、聖書の神様を私たちのお父様と呼べるのが大変うれしく思います。

これまで兄弟姉妹の皆様には、お祈りと励ましをいただき、ありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

尊き主イエス様にあって、私の証し文とさせていただきます。

受洗者 : 吉村知真 (よしむら・ともまさ)
受洗日 : 2021 年 7 月 25 日
受洗場所 : 熊本聖書フォーラム・熊本集会所
司式者 : 熊本聖書フォーラム代表 清水誠一
出席者 : 集会立ち合い 14 名、オンライン参加 17 名